

自由と芸術の教育を求めて



1930年頃 文化学院風景(木版)赤城泰舒画

1920年輕井沢に西村伊作、与謝野寛・晶子夫妻、石井柏亭、河崎なつが集まった。歓談の中で伊作が我が子を本当に行かせたい学校がないという話になり、「それでは子供達のために私達で学校を作りましょう」と云う事になって、文化学院の設立が決まった。本当に優しくて良い学校、ほかの学校のように規則や点数でしぼるのでなく、豊かな感性を持った人間に！伊作や晶子たちの情熱が今回の展示でいろいろと見えてきます。その知られざる事柄が当時の学生達の言葉からも伝わってきます。

ルヴァン美術館館長 西村八知

晶子先生は平家物語と和歌の時間に教室に来て下さった。まず古文を読まれるその読み方の抑揚の特異さ、いまだに当時の生徒達は初めの教行を晶子先生を真似た口調で読み語りすることが出来る。そのくらい度胆を抜かれたのである。講義中に末のお子様藤子さんがチョロチョロと入って来られると抱き上げて膝におのせになって、先生は本の続きを語られるが、生徒は何も聞こえなくなってただその光景に見惚れている。先生の授業は生徒が聞こうが聞まいが一向に意になさらないようで、ひとり静かに読み、かきくどくように訳されて平家物語の世界に浸られている。

中学部3回生 金窪キミ



1926年 文化学院教室の与謝野夫妻



1913年 展示会場の与謝野夫妻(油彩)西村伊作画



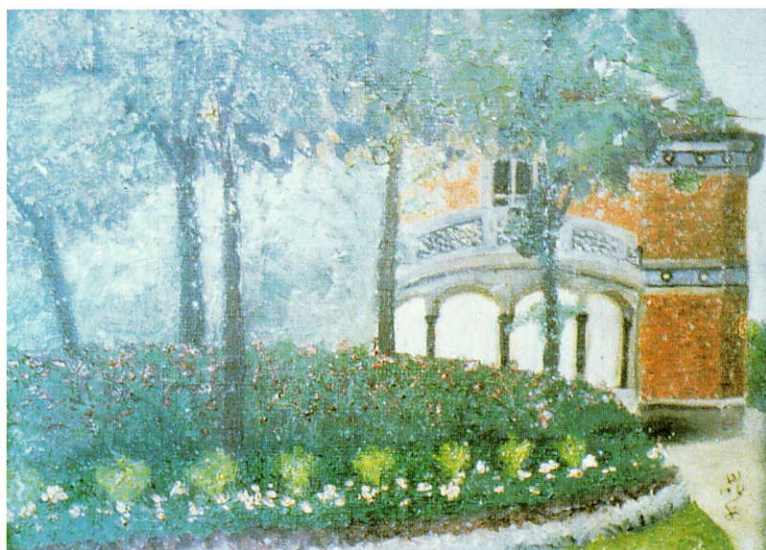
大垂水へ遠足 西村伊作・河崎なつ・与謝野夫妻 赤城泰舒・石井柏亭等と生徒達



1921年 晶子の編んだ学院の文学教科書と目次



1925年 中学部第1回生の卒業記念写真



リュクサンブール公園(油彩)与謝野晶子画

入館料 一般 800円 大・高 600円 中・小 400円

※15名以上団体割引

夏期 7/15 ~ 9/15 (入館は閉館30分前迄)

コーヒーショップ“Rolling Pin” ミュージアムショップ“Le Vent”

- JR長野新幹線「軽井沢駅」下車 又は、乗り継ぎ 信濃鉄道「中軽井沢駅」下車 車で10分 * 夏期は両駅より路線バス運行
- 上信越自動車道「碓氷・軽井沢IC」より15分 軽井沢バイパス18号「鳥井原」交差点(歩道橋)より杉瓜方面へ1.5km
- 駐車場 20台収容

このちらしを御持参の方は、4名様迄、割引致します。